

令和5年度 研究概要

<p>所属名</p> <p>カリキュラムセンター</p>	<p>研究会議名</p> <p>総合的な学習の時間研究会議</p>
<p>研究主題</p>	<p>「子どもが『～したい』という思いや願いをもって主体的に探究活動に取り組む姿を目指した単元づくり～動機付けと課題設定の在り方に着目して～」</p>
<p>資質・能力 育成を目指す</p>	<p>「～したい」という思いや願いをもち、探究的な学習に主体的・協働的に取り組むとともに、互いのよさを生かしながら、積極的に社会に参画しようとする態度を養う。</p> <p>【学びに向かう力，人間性等】</p>
<p>研究内容</p>	<p>本市における総合的な学習の時間の各中学校の全体計画では、多くの学校でカリキュラムが形骸化している等の課題がある。また、その内容は「東京校外学習に行くから東京について調べてみよう」といったように、探究課題が不明確で活動すること自体が目的化している傾向も見られる。そのため、課題設定が生徒の思いや願いと乖離し、主体的な活動につながっていかないという現状が見られる。一方で、小中学校の教員を対象に総合的な学習の時間に関するアンケートを取った結果、中学校教員からは、生徒が主体的になっていないという現状を理解しながらも「単元開発する時間が生み出せない」「どのように単元を作成すればよいかわからない」といった悩みも多く見られた。</p> <p>こうした中学校の課題や現状を鑑み、本研究会議では、既存のカリキュラムを生かしつつ、生徒が単元を通して課題を明確にもち、自ら「～したい」という思いや願いをもって主体的に探究活動に取り組む姿を目指した単元づくりについて研究していくこととした。そこで、課題である動機付けや課題設定の在り方に着目した。学習指導要領解説では、課題設定の場面において、生徒の考えとの「ずれ」や「隔たり」、対象への「憧れ」や「可能性」を感じさせる工夫をしなくてはならないと示されている。このような課題設定の工夫をすることで、その課題を解決するための情報収集の際に、体験活動の一つとして自然教室や校外学習といった学校行事等を効果的に活用することができるのではないかと考えた。</p> <p>以上のことから、本研究会議では、探究課題を明確にした上で、動機付けや課題設定場면을工夫することで、生徒が「～したい」という思いや願いをもち、学校行事等を活用して情報収集、整理・分析する姿や、それらの情報を生かしてまとめ・表現する姿が見られるようになったかを検証する。そして、検証授業を通して見えてきた成果と課題を踏まえて、既存のカリキュラムを生かして生徒が主体的に探究活動に取り組む姿につなげる単元づくりのポイントを整理していく。</p>